

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 年 月 日

事業所名 発達相談支援センターココベリ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		利用人数、年齢幅、活動内容に応じ、職員の人 数配置や別室での活動対応等有効活用している	
	2	職員の配置数は適切である	○		人員配置基準2名対し保育士3名、児童指導員2 名、指導1名等児童分野での経験と専門性を備 えた職員を配置している	ニーズに基づき、専門性を持った(言語聴覚士等)の採用 を検討していく
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化され た環境になっているか。また、障がいの特性 に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や 情報伝達等への配慮が適切になされている	○		動線をイメージし、利用児童の発達特性に応じた 小児用トイレ・手洗い場・整理棚を設置	入口の段差踏き対応の為、バリアフリー化を要望している
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境 になっているか。また、子ども達の活動に合わ せた空間となっている	○		日常の清掃、消毒を行い清潔な環境に気を付け ている 定期的な換気の他、加湿空気清浄機を導入し快 適に過ごせるよう配慮している	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目 標設定と振り返り)に、広く職員が参画してい る	○		PDCAサイクルを心掛け、日次、週次含めミーテ ィングを行い、情報の共有を行っている 月次の利用の状況やイベントが分かるようボード の設定を行っている	職員が自発的に改善する機会の提供を継続し、業務改善 につなげていく
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対し て事業所の評価を実施するとともに、保護者 等の意向等を把握し、業務改善につなげてい る	○		評価表による評価と好評を実施し、意向を把握し た中で、会議等で改善に努めている	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価 表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を 行うとともに、その結果による支援の質の評価 及び改善の内容を、事業所の会報やホーム ページ等で公開している	○		ホームページにより自己評価の公表を実施して いる 質の改善に向けてはミーティングを利用し、実施 することになった際は「お便り」等を利用し、周知 に取り組んでいる	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業 務改善につなげている		○		引き続き、相談・苦情解決委員会の中で、第3者設置を 早々に検討し、マニュアルに反映していく
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会 を確保している	○		内部研修や階層別研修を継続し、年間計画によ るOFFJTやOJTを定期的に実施している。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者の ニーズや課題を客観的に分析した上で、児童 発達支援計画を作成している	○		保護者面談を行ったり、全職員間で定期的に話 し合う等ニーズの把握や行動分析を行い、個別 支援計画に結び付けている	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、 標準化されたアセスメントツールを使用してい る	○		初回インテーク以外にアセスメントツールやサ ポートブックを使用し、共通化を実施 全職員が共通理解の基運用している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイド ラインの「児童発達支援の提供すべき支援」 の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家 族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子 どもの支援に必要な項目が適切に選択され、 その上で、具体的な支援内容が設定されてい る	○		ガイドラインに則した支援内容を個別支援計画に 反映している 反映された計画は職員への周知の他、保護者に 対しても丁寧に説明するよう努める	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われて いる	○		ミーティングでのアセスメントの意見や個別課題 を照らし合わせ、個別支援計画に反映させた上 で計画に沿った支援を実施している	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		プログラムは週担当が主体に活動を決定し、行 事計画はミーティングで決定している	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫してい る	○		音楽療法、運動療法、感覚、知育、SST等日替わ り週替わりとなる様設定し、内容も発達等に応じ プログラム内容を改善している	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動 を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成してい る	○		一人一人の発達や特性に応じ、個別・集団の課 題を考慮し、個別支援計画に反映させている	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、そ の日行われる支援の内容や役割分担について 確認している	○		朝礼時に役割や担当、活動内容の確認を行って いる	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、 その日行われた支援の振り返りを行い、気付 いた点等を共有している	○		記録入力時に情報を共有し、確認を行っている	全体での振り返りの場も提供し、サービスの質向上につな げていく
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、 支援の検証・改善につなげている	○		個々が積極的に記録を取り、視点の違いや共有 を行っている	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援 計画の見直しの必要性を判断している	○		ミーティング日を設け、各職員より情報の聞き取 りを行っている。記録の収集も含め一人一人違う 視点から意見を集約し、計画に反映させている		

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者や管理者、担当者等適任者を選んで出席している	育成面からも、一般職員も同席させ、経験や体験を積みませている
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		必要に応じた情報提供だけでなく、ケース会議に参加し、連携を図っている	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		※現在該当児童の在籍無し	必要に応じて連携について保護者と相談しながら行う
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		※現在該当児童の在籍無し	必要に応じて協力医療機関、主治医の指示をもとに、緊急時の搬送先等連絡体制を整える
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		関連した機関は出来るだけ出席し、情報共有を行っている。またサポートブックを活用し、事業所での様子や利用者への対応に関して意見交換を行った	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		移行先や保護者の要望に応じて情報提供を行っている。またサポートブックを活用し、移行支援を行っている。必要に応じ、小学校の見学会等に参加し、意見の交換もしている	系列事業所での移行支援が厳しいこともあり、移行先に対しても空き状況の要請や放デイの移行配慮に関して密に協力していく
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		利用者が併用する事業所間で放デイへの移行や今後の支援に関する共有を行っている	一部事業所で研修や助言を受けているが、今後他事業所との連携を増やしていく
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		Zoomでの意見交換会は実施したが、今後交流する機会の依頼や交換会の開催を検討していく
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			地域の社会福祉協議会に参加している
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		日々の送迎等、児童の状況や課題について話をする機会を設けたり、必要に応じてzoomを活用し、個別の相談時間も設けている	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	○		就学前の利用者、保護者を対象に事業所内相談を実施。ペアレントトレーニングを12月より開催(参加率を上げる為の改善を行っている)	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に丁寧に説明を行っている	不明時は随時職員が説明できるよう、職員に対しても教育を行っていく
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		契約時等ガイドラインに従い、児童発達支援計画を示しながら、内容を丁寧に説明し同意を得ている	※個別計画の詳細についても発達支援、移行支援、家族支援、地域支援の内容についても詳細に説明をしていく
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		送迎時や希望等に応じ相談を実施している。非定期ではzoomによる相談を開催した	相談会や見学会等の開催を検討し、必要な助言や支援ができる体制を検討していく
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		行事等でマルシェの他、運動会やペアレントトレーニングを開催した	父母の会として連携強化するための相談会や見学会、ペアレントトレーニングでの茶話会等保護者と接する機会を提供していく
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		相談や申し入れがあった場合、電話、面談等対応するよう努めている。苦情受付・解決相談も重要事項説明に記載し、契約時に説明している。苦情・解決委員会を設置し、総合的な研修の機会、マニュアルを整備した	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		お便りを毎月発行し、行事予定や連絡事項等の情報を発信している。臨時休所時は法人携帯にて各保護者へ連絡し、対応している	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報に関する契約と並行し、保管・管理を徹底、人権配慮からも職員へ周知している	管理に関しては鍵付きキャビネットを検討していく
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		個別での対応や連絡帳を使った情報共有を図り、伝達の配慮を行っている	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		ココベリマルシェを開催し、保護者のみならず地域に対し開かれた運営を実施している	

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		各委員会を設置し、マニュアルの制定・改廃を実施し、掲示を行っている 実施した訓練はお便りで保護者へ様子等を伝えている	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		法令に基づき、避難訓練、防災訓練を年2回(9月と3月)に開催している	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		保護者記入の緊急連絡先により把握し、必要に応じ聞き取りを行うことがある	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		現状医師の指示書をもっている児童はいない	緊急連絡先や保護者からの聞き取りにより必要に応じ服薬や投薬等の情報共有をお願いしていく
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット報告書を作成し、ミーティングや委員会を通し、職員で情報を共有している	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待・身体拘束防止委員会を中心にOFFJTやOJTで研修を定期的に行い、実践につなげている	外部研修対象の幅を全職員へ継続して展開していく
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		原則禁止のもと、重要事項説明書に記載し、保護者へ説明を行っている	外部研修対象の幅を全職員へ継続して展開していく